

米国農務省穀物等需給報告(2022年6月10日発表のポイント)

令和4年6月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、6月10日(現地時間)、2022/23年度の2回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

(※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億 6,797 万トン(対前年度比 0.9%減) ↑
- ② 消費量: 27億 8,500 万トン(対前年度比 0.3%減) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億 8,598 万トン(対前年度比 2.1%減) ↑
期末在庫率: 28.2%(対前年度差 0.5ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、ロシアや米国で冬小麦の生産量が引き上げられたが、インドで3月から4月にかけて極端な高温となり単収が引き下げられたことから、前月より下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、インドで飼料用その他需要が減少すること等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の生産量は、消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。世界の輸出量は、ロシアで引き上げられたが、インドで輸出規制により引き下げられたため前月から下方修正された。なお、ロシアの侵攻を受けたウクライナの生産量・輸出量は前月から変更はなく前年度より大きく減少する見通し。

- ① 生産量: 7億 7,343 万トン(対前年度比 0.7%減) ↓ ・・カナダ、ロシア、米国等で増加、ウクライナ、豪州、インド、EU、アルゼンチン等で減少(前月に比べインドで下方修正)
- ② 消費量: 7億 8,599 万トン(対前年度比 0.7%減) ↓ ・・中国、インド等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億 6,685 万トン(対前年度比 4.5%減) ↓ ・・インド、EU等で減少
期末在庫率: 34.0%(対前年度差 1.4ポイント減) ↑

とうもろこし : 世界の生産量は、ウクライナの作付面積が引き上げられ、前月から上方修正されたが、依然として前年度より大幅な減産となること等から、前年度を下回る見通し。なお、米国の生産量の見通しは前月から変更なし。世界の消費量は、ウクライナ、EU等で引き上げられたが前年度より減少する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度をわずかに下回る見通し。なお、ウクライナの輸出量は前月から変更はなく、期末在庫量は上方修正された。

- ① 生産量: 11億 8,581 万トン(対前年度比 2.5%減) ↑ ・・ブラジル、アルゼンチン等で増加、ウクライナ、米国、EU等で減少(前月に比べウクライナで上方修正)
- ② 消費量: 11億 8,628 万トン(対前年度比 1.0%減) ↑ ・・中国、ブラジル等で増加、米国、ウクライナ等で減少
- ③ 期末在庫量: 3億 1,045 万トン(対前年度比 0.2%減) ↑ ・・ウクライナ、ブラジル等で増加、中国、米国等で減少(前月に比べウクライナで上方修正)
期末在庫率: 26.2%(対前年度差 0.2ポイント増) ↑

コメ(精米) : 世界の生産量は、インドで引き上げられたことから、前月から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量もインドで引き上げられ、前月から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量を下回り、世界の期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 5億 1,535 万トン(対前年度比 0.3%増) ↑
- ② 消費量: 5億 1,922 万トン(対前年度比 0.9%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 1億 8,344 万トン(対前年度比 2.1%減) ↓ ・・中国等で減少(前月に比べインドで下方修正)
期末在庫率: 35.3%(対前年度差 1.1ポイント減) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、米国での増産により、史上最高となる見通し。世界の消費量は中国の需要増から前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。なお、2021/22年度の世界の大豆生産量の上方修正等から、世界の期末在庫量は上方修正された。

- ① 生産量: 3億 9,537 万トン(対前年度比 12.3%増) ↑ ・・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、米国等で増加
- ② 消費量: 3億 7,786 万トン(対前年度比 3.6%増) ↑ ・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億 46 万トン(対前年度比 16.6%増) ↑ ・・ブラジル、アルゼンチン、米国等で増加
期末在庫率: 26.6%(対前年度差 3.0ポイント増) ↑

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年6月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,724.09	2,794.47	2,767.97 ▲	0.9%	2.6	2,295.7
消費量		2,739.62	2,793.82	2,785.00 ▲	0.3%	▲ 0.9	2,284.4
期末在庫量		802.36	803.01	785.98 ▲	2.1%	2.4	480.4
期末在庫率		29.3%	28.7%	28.2% ▲	0.5	0.1	21.0%
小麦							
生産量		775.71	779.03	773.43 ▲	0.7%	▲ 1.4	660.5
消費量		782.30	791.21	785.99 ▲	0.7%	▲ 1.5	680.0
期末在庫量		291.57	279.40	266.85 ▲	4.5%	▲ 0.2	181.1
期末在庫率		37.3%	35.3%	34.0% ▲	1.4	0.04	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,439.10	1,501.77	1,479.19 ▲	1.5%	3.3	1,159.2
消費量		1,453.77	1,488.24	1,479.80 ▲	0.6%	▲ 0.2	1,139.5
期末在庫量		322.77	336.30	335.69 ▲	0.2%	5.3	175.8
期末在庫率		22.2%	22.6%	22.7% ▲	0.1	0.4	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,129.00	1,216.07	1,185.81 ▲	2.5%	5.1	898.8
消費量		1,143.22	1,198.39	1,186.28 ▲	1.0%	1.3	877.4
期末在庫量		293.25	310.92	310.45 ▲	0.2%	5.3	144.8
期末在庫率		25.7%	25.9%	26.2% ▲	0.2	0.4	16.5%
コメ(精米)							
生産量		509.29	513.67	515.35 ▲	0.3%	0.7	476.1
消費量		503.55	514.38	519.22 ▲	0.9%	0.8	464.9
期末在庫量		188.01	187.31	183.44 ▲	2.1%	▲ 2.8	123.6
期末在庫率		37.3%	36.4%	35.3% ▲	1.1	▲ 0.6	26.6%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比		前月差
生産量		368.13	351.99	395.37 ▲	12.3%	0.7	269.1
消費量		363.85	364.65	377.86 ▲	3.6%	0.4	265.1
期末在庫量		99.89	86.15	100.46 ▲	16.6%	0.9	58.7
期末在庫率		27.5%	23.6%	26.6% ▲	3.0	0.2	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 10, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2022年6月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		429.86	449.59	435.17	▲ 3.2%	0.2	353.0
消費量		351.02	360.50	353.00	▲ 2.1%	0.1	317.1
輸出货量		107.45	94.39	92.08	▲ 2.4%	-	51.6
期末在庫量		58.40	59.35	56.63	▲ 4.6%	1.3	44.2
期末在庫率		12.7%	13.0%	12.7%	▲ 0.3	0.3	12.0%
小麦							
生産量		49.75	44.79	47.26	▲ 5.5%	0.2	61.3
消費量		30.48	30.65	30.21	▲ 1.4%	-	37.8
輸出货量		26.99	21.91	21.09	▲ 3.7%	-	27.5
期末在庫量		23.00	17.82	17.05	▲ 4.3%	0.2	19.5
期末在庫率		40.0%	33.9%	33.2%	▲ 0.7	0.4	29.9%
粗粒穀物							
生産量		372.89	398.71	382.10	▲ 4.2%	-	285.3
消費量		315.70	325.14	318.25	▲ 2.1%	0.1	275.5
輸出货量		77.48	69.81	68.39	▲ 2.0%	-	20.7
期末在庫量		34.01	40.30	38.50	▲ 4.5%	1.1	23.5
期末在庫率		8.6%	10.2%	10.0%	▲ 0.2	0.3	7.9%
とうもろこし							
生産量		358.45	383.94	367.30	▲ 4.3%	-	273.2
消費量		306.54	315.99	309.13	▲ 2.2%	0.1	263.0
輸出货量		69.92	62.23	60.96	▲ 2.0%	-	18.5
期末在庫量		31.36	37.71	35.55	▲ 5.7%	1.0	20.9
期末在庫率		8.3%	10.0%	9.6%	▲ 0.4	0.3	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.22	6.09	5.80	▲ 4.8%	-	6.3
消費量		4.85	4.72	4.54	▲ 3.8%	-	3.8
輸出货量		2.98	2.67	2.60	▲ 2.6%	-	3.4
期末在庫量		1.39	1.22	1.09	▲ 10.7%	0.0	1.2
期末在庫率		17.8%	16.5%	15.3%	▲ 1.2	0.6	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	120.71	126.28	4.6%	-	82.8
消費量		61.05	63.47	64.78	2.1%	-	48.6
輸出货量		61.52	59.06	59.87	1.4%	-	36.1
期末在庫量		6.99	5.58	7.61	36.4%	▲ 0.8	3.8
期末在庫率		5.7%	4.6%	6.1%	1.6	▲ 0.7	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 10, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2022年)

● 小麦 : 10.40 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.88 ドル/bu)

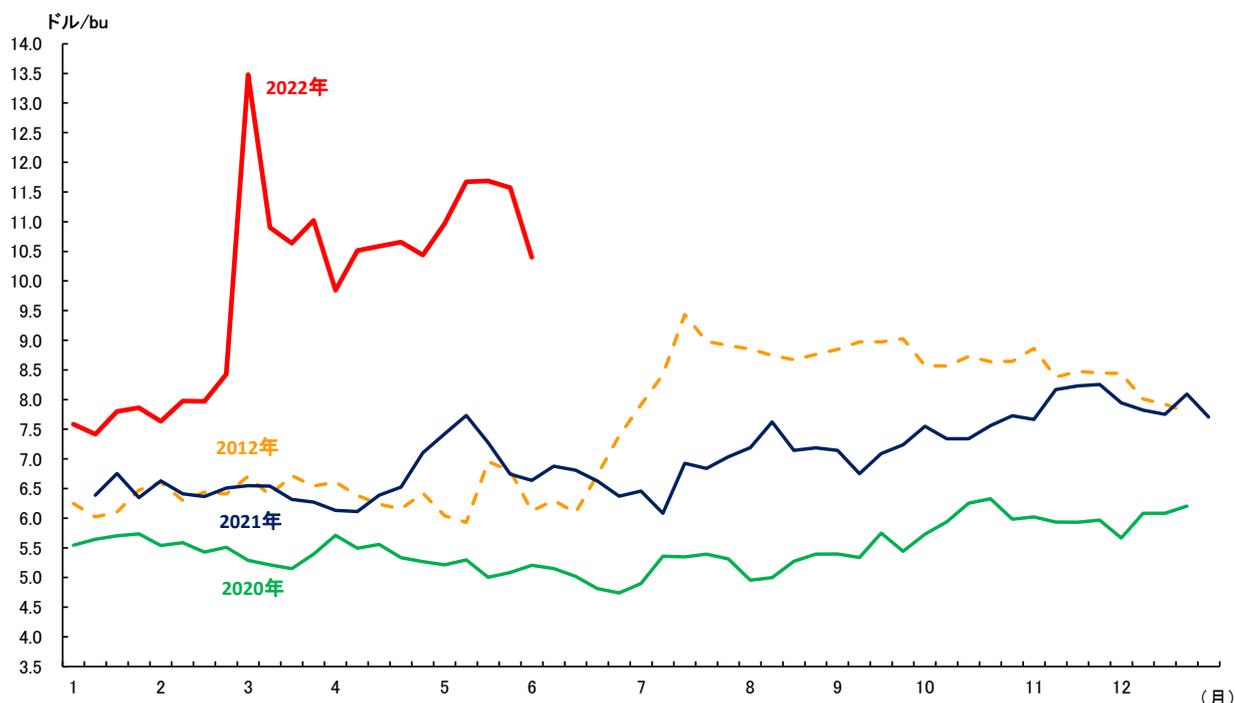
【価格は、シカゴ商品取引所における2022年6月第1週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、アルゼンチン産小麦の豊作や、USDA 1月需給報告での市場予想を上回る世界の期末在庫量も、7ドル/bu 台前半から半ばで推移。その後、乾燥が続いていた米国中西部での寒波の影響懸念や、ウクライナ情勢の緊張から、8ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報等から、7ドル/bu 台半ばで推移した。

2月に入り、米国冬小麦産地での降雨等も7ドル/bu 台半ばで推移。2月中旬以降、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から値を上げ、3月7日には史上最高の14.25ドル/buに値を上げた。その後は、黒海地域の輸出の混乱も、USDA発表の作付意向面積が前年度に比べ増加したこと等から10ドル/bu 前後に値を下げた。

4月に入り、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による世界的な小麦の供給懸念や、冬小麦の主産地の米国プレーンズの乾燥による作柄への影響懸念等から11ドル/bu 台前半まで上昇したものの、米国の低調な輸出需要等から10ドル/bu 台半ばに値を下げた。

5月に入り、米国産冬小麦の主産地であるプレーンズでの降雨があったものの、インドの輸出停止やウクライナ産の輸出の停滞から、12ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から値を下げ、5月末現在、10ドル/bu 台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：7.27 ドル/bu （前年同時期の価格：6.83 ドル/bu）

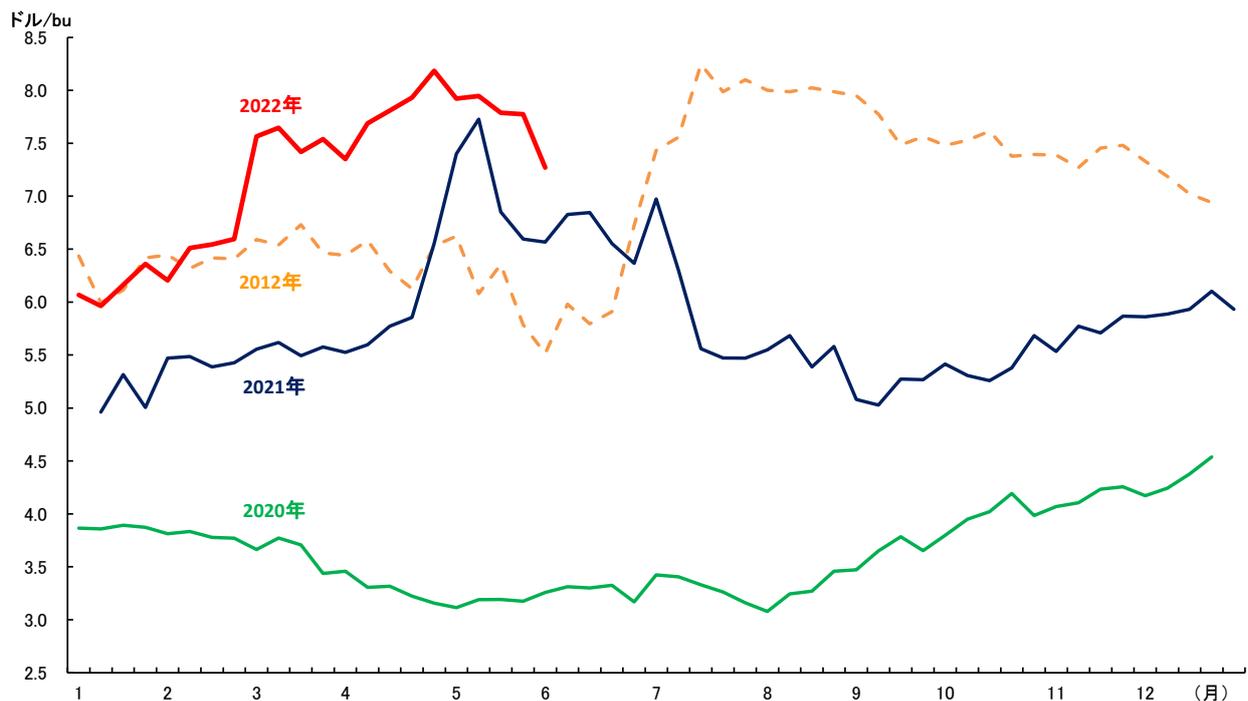
【価格は、シカゴ商品取引所における 2022 年 6 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)】

1 月に入り、南米の乾燥懸念に支えられ 6 ドル/bu 前後で推移したものの、1 月半ばに、南米の短期的な降雨予報等から 5 ドル/bu 台後半に値を下げた。その後、原油価格の上昇、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から 6 ドル/bu 台前半に値を上げた。

2 月に入り、南米の短期的な降雨予報等で一時値を下げたものの、2 月中旬から 3 月中旬にかけて、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、原油価格の上昇等から 7 ドル/bu 台半ばに値を上げた。その後も、ウクライナ情勢や原油価格の上昇に加えて、市場予想を下回る USDA 発表の作付意向面積等に支えられ、7 ドル/bu 台半ばで推移。

4 月に入り、ロシアによるウクライナ侵攻の深刻化、米国中西部の低温や雨がちな天候による作付けの遅れ、原油価格の高止まり等から 8 ドル/bu 台前半に値を上げた。

5 月に入り、ロシアのウクライナ侵攻の継続、原油価格の高止まりの一方、米国中西部の低温や雨がちな天候で遅れていた作付けが天候の改善により加速されたこと、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から値を下げ、5 月末現在、7 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：480 ドル/トン（前年同時期の価格：506 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2022 年 6 月第 1 水曜日の FOB 価格。史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)】

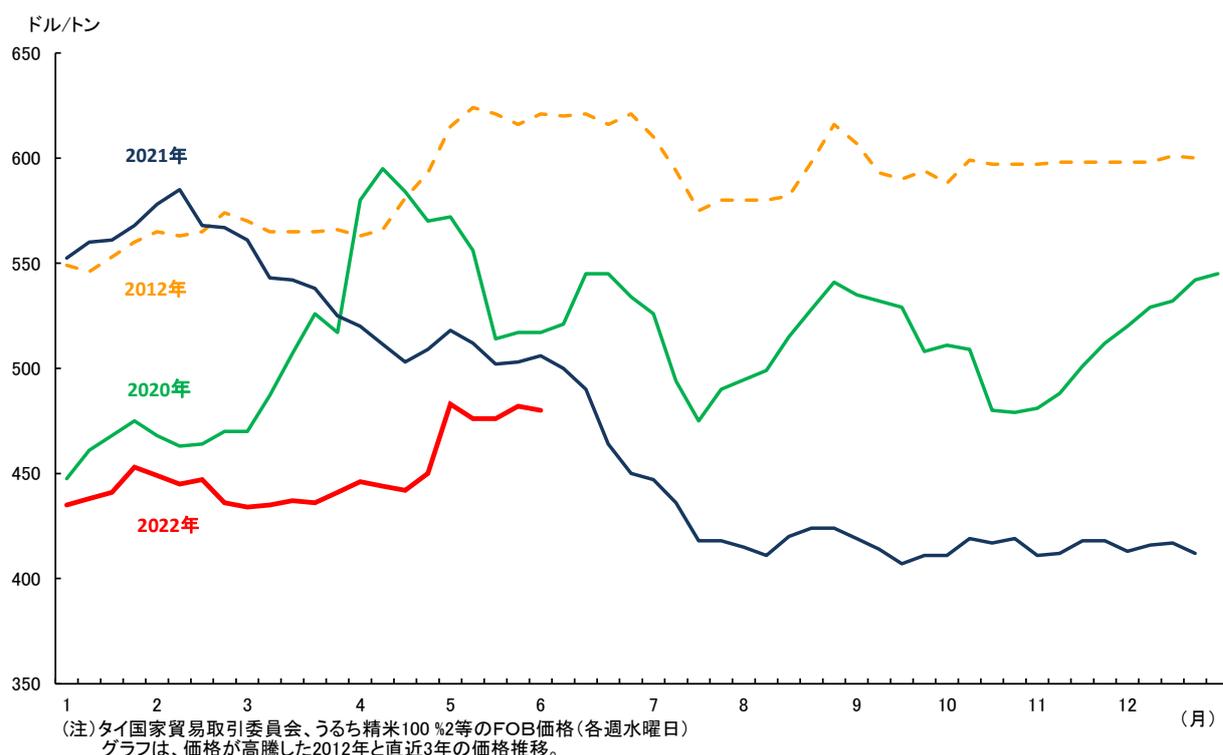
1 月に入り、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要やパーツ高等により、450 ドル/トン台前半に値を上げた。

2 月に入り、旧正月の休暇期間などによる需要の減少などから、2 月中旬には 440 ドル/トン台半ばまで値を下げ、その後もパーツ高により海外からの需要が減少したことで更に 430 ドル/トン台半ばまで値を下げた。

3 月に入り、ロシアのウクライナ侵攻が深刻化する中においても、コメについては新規需要が乏しく、ほぼ横ばいで推移したものの、3 月下旬からアフリカ諸国や中東からの需要により 440 ドル/トン台前半まで値を上げた。

4 月に入り、パーツ安の一方で、ラマダンを迎えたアフリカ諸国の需要に下支えされ、440 ドル/トン台前半から半ばで推移。その後、イラクからの需要で 450 ドル/トン前後に値を上げた。

5 月に入り、パーツ安にも関わらず、継続するイラク等からの強い需要により 480 ドル/トン台前半まで値を上げた。その後、インド産等の価格競争により値を下げたものの、タイ国内およびイラクからの需要により再び値を上げ、5 月下旬現在、480 ドル/トン台前半で推移。



● 大豆：16.98ドル/bu（前年同時期の価格：15.84ドル/bu）

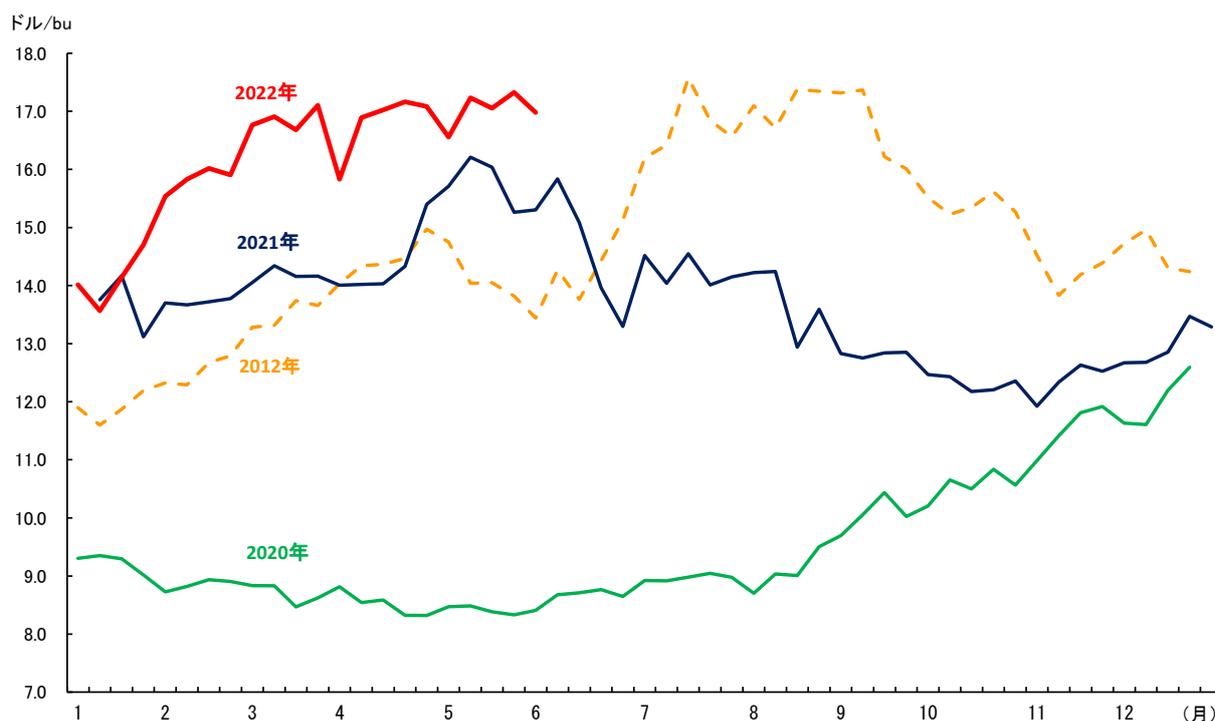
【価格は、シカゴ商品取引所における2022年6月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から1月上旬に14ドル/bu台前後まで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から一時13ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、再び乾燥による南米の生産量の減少見通し等から16ドル/bu台後半に値を上げた。

2月下旬に、南米の産地の降雨予報や利益確定の動きから一時15ドル/bu台後半に値を下げたものの、3月下旬にかけウクライナ情勢の緊張の中、南米の高温・乾燥によるさらなる減産懸念や、植物油価格全体の上昇等から17ドル/bu台前半に値を上げた。その後、3月末にかけ、市場予想を上回るUSDA発表の作付意向面積から16ドル/bu台前半に値を下げた。

4月に入り、ラニーニャ現象に伴うブラジルの高温・乾燥による減産やロシアのウクライナ侵攻の深刻化、インドネシアのパーム油の輸出規制等による植物油価格全体の上昇等から17ドル/bu台半ばまで値を上げた。

5月に入り、コロナ感染封じ込めに伴うロックダウンによる中国の需要低迷の懸念等から5月上旬に16ドル/bu台前半まで値を下げたものの、米国の大豆輸出が中国向けを中心に好調なペースを維持していること、ロシアのウクライナ侵攻の継続やインドネシアのパーム油の輸出規制等による植物油価格全体の高止まり等から17ドル/bu台前半に再び値を上げた。その後、低調な輸出需要や大豆油の下落から値を下げ、5月末現在、16ドル/bu台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
108.99	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78			

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45.01	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90			

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

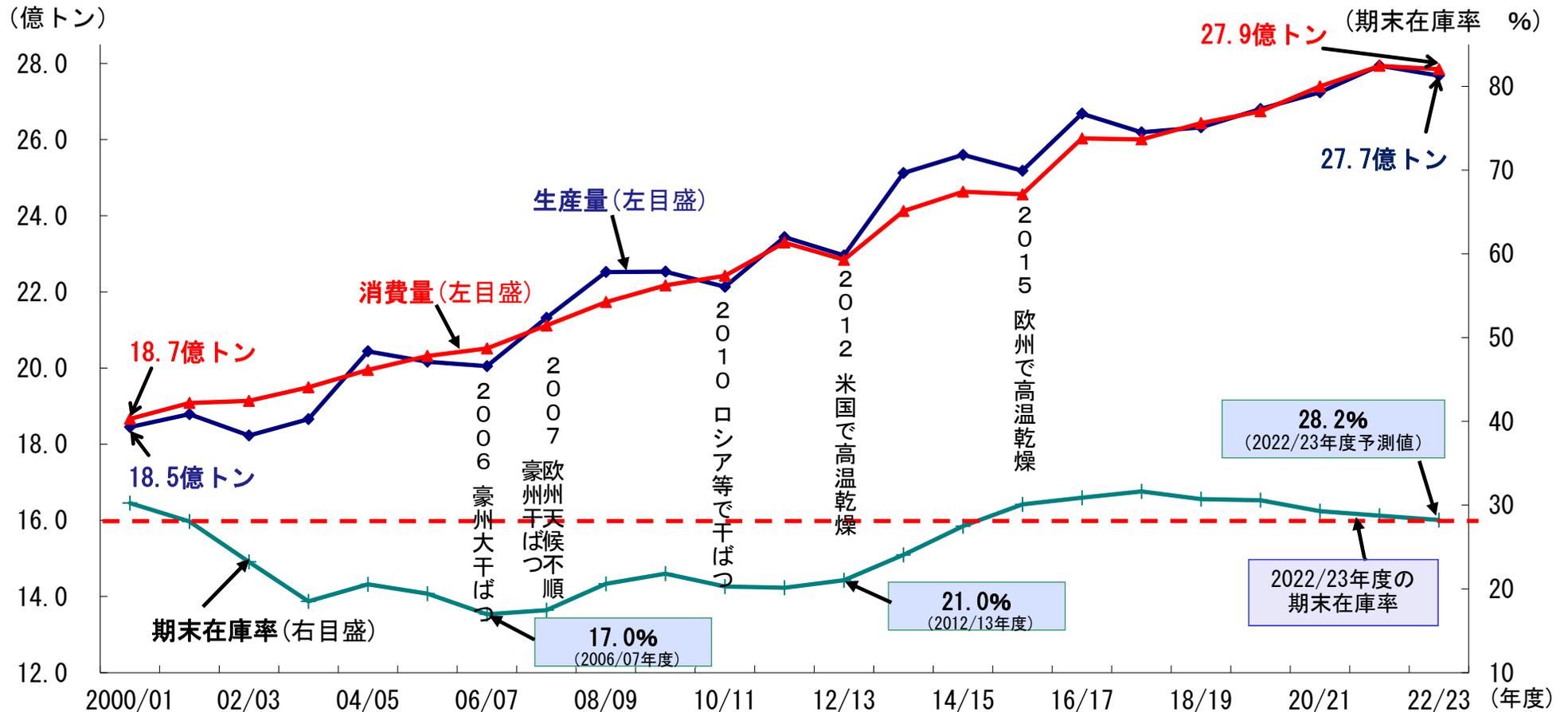
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
57.03	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.55			

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年5月, 120頁
但し、2022年5月 は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.2%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2022)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。